

令和 6 年度(2024年度) 学校評価報告書

北海道小樽未来創造高等学校定時制課程

1 本年度の重点目標

- (1) 働きながら学ぶ意義を理解し、自らを高める態度を養う。
- (2) 望ましい生活習慣を身に付け豊かな心を養う。
- (3) 基礎・基本の学習を大切にし、自ら学ぶ態度を養う。
- (4) 生命の尊さを自覚し、健康と安全を心掛ける態度を養う。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標	・教育目標についての教職員の共通理解は図られており、保護者からも一定の支持が得られている。	・教職員、保護者、生徒へのアンケートを基に、教育に係るPDCAサイクルを実践していることは評価できる。 ・教職員の研修参加や校務内規の見直しは不断の教育改善に向けた取組として評価できる。
改善方策	・学校評価の活用推進 ・職員評価制度の活用推進 ・職員研修の活用推進 ・校務内規の不断の見直し	
学習指導	・一人ひとりに寄り添い、目を配りながら興味・関心を引き出す学習指導を行い、基礎・基本の定着を図った。 ・様々な工夫をした教材を使用して授業を展開した。 ・ICT機器を活用した主体的な学びや協同的な学びを取り入れ、学習意欲の向上を図った。	・基礎学力が不足している生徒に対する補習等、きめ細かな学力ケアの充実は評価できる。 ・生徒による授業評価アンケート結果を基に授業改善を行い、生徒の実態に即した指導が行われている点は評価できる。
改善方策	・教育課程の不断の改善 ・ICT機器の活用と授業改善の推進 ・授業規律の徹底と学習習慣の確立 ・基礎学力の定着及び補習等の学力ケアの充実	
生徒指導 いじめ	・玄関指導等で、日頃から生徒の言動や様子に目を配り、情報を教員間で共有し、生徒理解を深めた。 ・各行事等への積極的な教員の関わりが生徒の安心に繋がっている。 ・SCを活用した教育相談や講話を全生徒対象に実施し、生徒理解に努めた。 ・外部講師を招聘したSSTを実践し、自己及び他己理解を深めた。	・生徒指導事故0件、いじめ0件というのは、日頃から教員が生徒一人一人の様子を把握し親身に指導している結果の表れであり評価できる。 ・生徒自身に共存や相互尊重の意識を醸成する講習会を実施するなど、社会人に必要な協働・敬愛の精神や社会性を育む適切な指導が行われていると評価できる。
改善方策	・全教職員による一貫した指導及び組織的計画的生徒指導の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・安全教育の推進 ・生徒理解と教育相談の充実 ・いじめ対応の組織的取組	
進路指導	・外部講師を活用し、キャリア教育プログラムを実施し進路意識を高められている。 ・キャリア教育計画のもと、面談を個に応じて進めているので徐々にではあるが成長している。	・職業観を醸成する取組を実施し、それが就職や進学につながっていることは評価できる。 ・キャリア教育は自己分析のみならず企業分析をしっかり行い、自分の価値観と企業の価値観をマッチングさせることが肝要であるので、4年間で段階を踏みながら進められるよう計画的な指導に引き続き努めていただきたい。
改善方策	・4年間を見通した計画的進路指導の推進 ・進路情報の収集及び進路開拓の推進 ・情報提供の工夫と進路意識の醸成	
健康安全 指導	・外部講師による交通安全講話や薬物乱用防止教室、保健(思春期)講話	・生徒一人一人に寄り添った健康指導、教育相談を行うなどきめ細やかな取組はたいへん評価できる。

	を実施し健康面・安全面に関する意識を高めることができた。 ・生徒の心と身体健康状態を把握し、継続的な指導を行うため、健康診断の結果やＳＣの助言等を有効に活用した。 ・健康を管理できるよう、保健だよりで啓発をおこなった。	・スクールカウンセラーとの面談など、支援体制の充実に取り組んでおり評価できる。
改善方策	・防災訓練の工夫改善 ・安全教育の推進 ・危機管理マニュアルの不断の見直し ・関係機関との連携	
信頼される学校づくり	・インスタグラムを活用し、日頃の学校生活を掲載して地域・保護者への情報発信を行い、好評をいただいている。 ・ＨＰの更新頻度を上げ、学校生活の情報発信を行った。 ・「定時制便り」をＨＰに掲載して地域・保護者への情報発信を行った。	・地域への広報活動、情報発信については、少数のスタッフで努力されているが、残念ながら成果としては不十分といわざるをえない。 ・小樽という街に溶け込んだ、より良い学校づくりに期待しています。歴史ある企業、外部から訪れる人々、そこから学ぶことのできるカリキュラムは本校ならではの考えます。
改善方策	・ＨＰ・インスタグラム等情報発信の工夫改善 ・学校評価の活用の推進 ・地域・保護者との連携の充実 ・職員評価制度の活用の推進	
組織運営の活性化	・「校務分掌等任命の原則について」を策定し、教職員間の業務の平準化を図った。 ・各種委員会を整理し、校務をスムーズに運営できるように改善を図った。 ・コンプライアンス委員会を新設し不祥事防止に努めた。	・学校の様々な課題や進むべき方向について全教職員が情報共有し理解することは健全な組織運営に欠かせない。教職員が学校課題に対し協力して取り組める職場づくりを推進していることは評価できる。 ・少人数による運営のメリットが表れたと判断できる。
改善方策	・校内組織間の情報共有化 ・働き方改革のより一層の推進 ・互いに話しやすい環境、互いに協力し合う職場づくりの推進	
教職員の資質向上	・研修主事主導のもと、校内研修会を充実させることができた。 ・ＩＣＴ機器の活用や指導と評価の一体化に関する研修を実施し授業改善を行った。 ・コンプライアンスに関する校内研修会を充実させることができた。	・教育内容のＩＴ化への対応など自己研鑽が求められる中、関連する研修などに教職員が積極的に参加する姿勢・意識は評価できる。 ・各教職員がコンプライアンスを遵守することは学校に対する信頼を確立するためにも必須であり、その意識を高めるよう引き続き努めていただきたい。
改善方策	・実践的な校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の活用と授業改善の推進 ・校外研修の推進と研修成果の還元 ・働き方改革のより一層の推進	
保護者、地域関係機関等との連携	・昨年度に続き、「現場見学会」を実施し、地域等の教育資源を活用した授業を行うことができた。 ・定時制として初めて学校祭を実施し、生徒の活躍する様子を地域の方に披露することができた。	・生徒が初めて学校祭に参加し模擬店を出店するなど、地域とのつながりを強める取組は評価できる。 ・校外への情報発信は、努力されていることはよく理解できるが、結果として十分であったとはいえない。教員等の負担を増加しない、情報発信の手法を学ぶ機会を設けてはいかかがか。
改善方策	・ＨＰ・インスタグラム等情報発信の工夫改善 ・地域・保護者との連携の充実	
施設・設備	・情報技術委員会を中心としてＩＣＴ機器に関連するアクセサリー類を充実させることができた。	・引き続き、ＩＴ化が進む学習環境の最適化に努めていただきたい。 ・老朽化が進む教育施設・設備の維持・管理に取り組み、生徒の安心・安全の確保にも努めていただきたい。
改善方策	・ＩＣＴ機器の維持・管理	
公表方法	・ホームページへの公表 ・学校評議員会 ・ＰＴＡ役員会 ・ＰＴＡ総会	